

2027年度

北海道大学大学院文学院
博士後期課程

学生募集要項

2026年5月

<オンライン進学説明会のお知らせ>

開催日：

2026年6月19日（金）

2026年11月13日（金）

申込：

説明会は、全体説明会と個別相談会の2部構成となっています。第1部の全体説明会は事前申し込み不要ですが、第2部の個別相談会に参加を希望される方は、事前申込が必要です。（6月17日午後5時、11月11日午後5時まで受付）。第1部のみの参加も可能です。

詳細は以下 URL をご確認ください。

<https://www.let.hokudai.ac.jp/general/gshhs-portal>



2027年度北海道大学大学院文学院 博士後期課程学生募集要項

北海道大学大学院文学院には、人文学、人間科学の2専攻があり、それぞれ下記の講座及び研究室から構成されている。募集は、専攻を単位として、志望する研究室ごとに試験が実施される。

専 攻	講 座	研 究 室
人文学専攻	哲学宗教学	哲学倫理学
		宗教学インド哲学
	歴史学	日本史学
		東洋史学
		西洋史学
		考古学
	文化多様性論	文化人類学
		芸術学
		博物館学
	表現文化論	欧米文学
		日本古典文化論
		中国文化論
映像・現代文化論		
言語科学	言語科学	
	スラブ・ユーラシア学	
	アイヌ・先住民学	
人間科学専攻	心理学	心理学
	行動科学	行動科学
	社会学	社会学
	地域科学	地域科学

目 次

教育研究上の目的及びアドミッションポリシー	1
I. 出願	4
II. 入学試験	7
・出願上の注意	
・受験票の発送	
・入学手続	
・外国籍の出願者への留意事項	
・長期履修制度について	
・教育方法の特例(大学院設置基準第14条による特例)について	
・個人情報の取り扱いについて	
・入学試験に関する問い合わせ先	
・各種情報開示について	
・その他	
別記1《参考》	11
・修士課程授業科目表	
・各研究室における専門分野	
別記2 出願資格審査	15
別記3 オンラインで受験する方へ	16
別記4 研究室別試験案内	17

教育研究上の目的及びアドミッションポリシー

1. 本学院の教育研究上の目的

本学院は、人文科学の諸領域において高度の専門的な教育研究を行うことにより、「ことば」に対する感受性及び論理的な思考力、総合的な判断力等を有する人材の育成を図るとともに、国際的に卓越した創造的な研究者を養成し、及びその資質の向上を図ることを目的とする。

(1) 人文学専攻

人文学専攻は、哲学宗教学、歴史学、文化多様性論、スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学、表現文化論、言語科学の7講座からなる。哲学宗教学講座には哲学倫理学、宗教学インド哲学の各研究室が、歴史学講座には日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学の各研究室が、文化多様性論講座には文化人類学、芸術学、博物館学の各研究室が、表現文化論講座には欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の各研究室がそれぞれ含まれ、多岐にわたる学問領域を対象としている。

哲学宗教学講座は、経済と政治のグローバル化が進展する中で、価値観の対立と衝突も生まれている現代社会において、人間の在り方について根源的な問を發しつつ、その間に果敢に答えようとする深い学識を培う分野である。歴史学講座、文化多様性論講座、スラブ・ユーラシア学講座、アイヌ・先住民学講座は、他者と共感する真摯な姿勢と本質を見抜き相対化する批判精神を必要とする、広義の異文化を対象とする分野であり、古典を含む文献読解の方法、ヨーロッパ、アジア及び北方地域を含む多様な言語の修得、現地調査を含むデータ収集とその処理・分析方法、物質・精神にまたがる異文化へのアプローチ、地域や民族がかかえる現代的課題への視野、等について学際的・総合的な教育研究を行う。表現文化論講座は、多様な言語で記された文学・思想を対象とし、日本文学、英米・英語圏文学、フランス文学、ロシア・スラブ文学、西洋古典学、中国文学、中国語学、中国思想、さらには映像論、批評理論、文化批評を対象とする視覚メディア文化や言語表現文化の教育研究が含まれる。言語科学講座は、言語理論を扱う言語学と、国語学・日本語学、英語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学・スラブ語学など個別の言語を対象とする分野からなる。

本専攻においては、文献資料や先行研究から得られる知識はもとより、ときにはみずからフィールドへと出向いて異文化を体感する行動力も求められる。そのような自己と他者との対話を通して、文化の多様性と共通性を学び、過去と現在、中心と周縁を有機的に結びつけて世界の総体を捉え直すことのできる、バランスのとれた人材の育成を目指している。

本専攻の目的は、上記の多様な領域における個別的教育研究、並びに諸分野を複合的総合的に横断する領域の教育研究を通して専門的学識と幅広い教養を合わせ持つ学生を育成し、中等・高等教育機関、博物館・資料館、国際交流機関やIT、マスメディア等、官公庁や企業のさまざまな分野で活躍できる人材を社会に送り出すとともに、創造性豊かな優秀な研究者の育成を目指している。また海外の研究者を招いて講演会、研究会等を積極的にを行い、学生に海外の研究者と接する機会を提供するとともに、学生の海外派遣を含む研究教育の国際化に取り組み、国際的な視点をも身につけた人材の育成を目指している。

(2) 人間科学専攻

人間科学専攻は、心理学、行動科学、社会学、地域科学の4講座からなる。

本専攻は心理学講座(認知心理学、認知科学、実験心理学)、行動科学講座(社会心理学、社会環境と行動、文化と心理など行動科学全般)、社会学講座(社会学理論、社会構造と社会変動、社会集団)、地域科学講座(地域社会学、人文地理学、社会生態学)からなり、実験、コンピュータ・シミュレーション、社会調査、聞き取り調査、フィールドワークなど多様な方法論を用い、人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチを行っている。

本専攻の目的は、まず、学生がそれぞれのディシプリンを修得した上で、専攻に共通の授業を通して微視的及び巨視的な観点を獲得すること、また国際学術誌への投稿、国際学会での発表、国内外の研究交流等を通して、大学や様々な研究機関において国際的水準に立って研究できる研究者を育成することである。さらに本専攻は、官公庁、企業等に就職し、教育、医療、IT、マスメディア等の幅広い領域で活躍できる高度専門家の養成を目指している。

2. アドミッションポリシー

学院の理念

北海道大学大学院文学院は、グローバル化・情報化が進展する中で、従来の価値観が変化しつつある現代にあって、そこに生きる人間と人間が創り出す社会や文化の本質を学ぶことができる大学院教育を提供し、人文社会科学諸分野における専門的知識と研究方法を身に付け、社会の様々な領域において活躍できる人材を育成する。

教育目標

全国屈指の多様な研究分野と豊富な教員スタッフを擁する本学院は、学部での学修の成果をさらに向上・発展させ、徹底した少人数教育を通じて、個別の研究分野を深く追究し、現代社会のさまざまな問題に専門的な視点をもって取り組むことのできる人材を育成することを目標とする。

人文学専攻

専攻の理念

北海道大学大学院文学院人文学専攻は、思想、文化、歴史、言語、文学、地域研究等を教育研究の対象とし、これらの個別領域、さらにそれらを横断する領域に関して、深い専門知識並びに高い問題解決能力を身につけ、その成果を社会における様々な分野で生かすことのできる学生を求める。

〈博士後期課程〉

求める学生像

北海道大学大学院文学院人文学専攻博士後期課程は、以下に示す目標を達成する意志をもつ学生を求める。

- ・人文学の諸領域に関する高度な専門知識をもとに研究を進め、広汎で深い知識を修得するとともに、当該領域の問題に積極的に取り組み、学術的に貢献できる。
- ・高度なコミュニケーション能力によって国際的な交流を深めつつ、各専門分野において高い独創性と指導力を発揮できる。
- ・専門とする研究成果を、社会に分かりやすく説明し還元するとともに、さらなる知の創造活動へとつなぐことができる。

そのために、入学希望者には、専門分野に関する高度な専門知識及び分析能力並びに研究遂行に必要な高度のコミュニケーション能力を養っておくことが期待される。

入学者選抜の基本方針

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、口述試験等の結果及び出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、口述試験では、提出された修士学位論文(写)・研究計画書等に基づいて、専門知識・研究計画等について試問することにより、入学後の研究遂行に必要な高度な専門知識・分析能力並びにコミュニケーション能力等を評価する。また、研究室によっては、筆記による試験等を課すことにより、各専門分野における研究遂行に必要な高度な専門知識や表現力等を評価する。

人間科学専攻

専攻の理念

北海道大学大学院文学院人間科学専攻は、個体としての人間やそれによって構成される集団、社会、地域を教育研究の対象とし、これらの諸要素間の相互関係を総合的に解明するため深い専門知識並びに高い問題解決能力を身につけ、その成果を社会における様々な分野で生かすことのできる学生を求める。

〈博士後期課程〉

求める学生像

北海道大学大学院文学院人間科学専攻博士後期課程は、以下に示す目標を達成する意志をもつ学生を求める。

- ・人間個人や集団について人文・社会科学的立場から、実証的なアプローチによって研究を進め、広汎で深い知識を修得するとともに、優れた調査能力・分析能力・考察力等を身につけ、学術的に貢献できる。
- ・高度なコミュニケーション能力によって国際的な交流を深めつつ、各専門分野において高い独創性と指導力を発揮できる。
- ・専門とする研究成果を、社会に分かりやすく説明し還元するとともに、さらなる知の創造活動へとつなぐことができる。

そのために、入学希望者には、専門分野に関する高度な専門知識及び分析能力並びに研究遂行に必要な高度のコミュニケーション能力を養っておくことが期待される。

入学者選抜の基本方針

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、口述試験等の結果及び出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、口述試験では、提出された修士学位論文(写)・研究計画書等に基づいて、専門知識・研究計画等について試問することにより、入学後の研究遂行に必要な高度な専門知識・分析能力並びにコミュニケーション能力等を評価する。また、研究室によっては、筆記による試験等を課すことにより、各専門分野における研究遂行に必要な高度な専門知識や表現力等を評価する。

本学院は、博士後期課程の学生募集を下記の要領に従い、前期(9月)と後期(2月)とに分けて2度行う。
入学志願者は、前期と後期のいずれか、又は両方を受験することができる。

I. 出 願

1. 専攻及び募集人員

人文学専攻	(前・後期)	28名	} 合計 35名
人間科学専攻	(前・後期)	7名	

2. 出願資格

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者又は 2027 年3月までに授与見込みの者
- (2) 外国の大学において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を有する者又は 2027 年3月までに授与見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は 2027 年3月までに授与見込みの者(「3. 出願資格審査」参照)
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は 2027 年3月までに授与見込みの者(「3. 出願資格審査」参照)
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和 51 年法律第 72 号)第1条第2項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了した者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者(「3. 出願資格審査」参照)
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)。(別記2、15頁参照)
※大学を卒業し、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 本学院において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 15 年4月1日以前に出生したもの(別記2、15 頁参照)
※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生や外国大学日本分校等修了者など修士の学位を有していない者で、上記(7)に該当しない者が対象

3. 出願資格審査

「2. 出願資格」の(3)、(4)、(6)により出願しようとする者は、【前期試験】2026 年6月 12 日(金)、【後期試験】2026 年 11 月6日(金)までに本学院に申し出ること。

「2. 出願資格」の(7)、(8)により出願しようとする者は、別記2(15 頁)により必要書類を提出すること。

4. 出願書類

出願書類等	備 考
<input type="checkbox"/> 入学願書 <input type="checkbox"/> 受験票・写真票	インターネット出願サイトにて、必要事項の入力後に作成される入学願書及び受験票・写真票をA4判用紙に印刷し、写真を貼付すること。 〈写真(計3枚)〉入学願書用1枚:縦4.5cm×横3.5cm、受験票用・写真票用各1枚:縦4.0cm×横3.0cm ※顔写真に加工・修正を施さないこと。本人と確認できない場合は受験を認めない。 研究室名については、別記(8頁)を参考にして記入すること。
<input type="checkbox"/> 成績証明書(コピー不可)	出身大学(研究科)長の発行するもの。本学文学院・文学研究科既卒者は提出不要(修了見込みの者は添付すること)。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【重要】中華人民共和国(香港・マカオ特別行政区を除く)の大学を修了、又は修了見込みの者は、CHSI (中国高等教育学生信息网) が発行する英語による成績証明書を、CHSI から本学院 (iau@let.hokudai.ac.jp) あてに直接メールで送信する形で提出すること。 CHSIアドレス: https://www.chsi.com.cn/xlcx/bgvs.jsp ※提出時点で Web 認証の有効期限が 15 日以上残っていることを確認すること。 書類の遅延はいかなる理由によっても認めない。証明書の発行には時間がかかり、システムの休止等も起こり得るため、予め十分な時間の余裕をもって準備すること。</p> </div>
<input type="checkbox"/> 修了(見込)証明書(コピー不可)	出身大学(研究科)長の発行するもの。本学文学院・文学研究科出身者は提出不要。外国の大学を修了した場合は、修了(見込)証明書に取得学位が記載されているもの。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【重要】中華人民共和国(香港・マカオ特別行政区を除く)の大学を修了、又は修了見込みの者は、CHSI (中国高等教育学生信息网) が発行する英語による以下証明書等を、CHSI から本学院 (iau@let.hokudai.ac.jp) あてに直接メールで送信する形で提出すること。 CHSIアドレス: https://www.chsi.com.cn/xlcx/bgvs.jsp ※提出時点で Web 認証の有効期限が 15 日以上残っていることを確認すること。 書類の遅延はいかなる理由によっても認めない。証明書の発行には時間がかかり、システムの休止等も起こり得るため、予め十分な時間の余裕をもって準備すること。</p> <p>既 卒 者…中国高等教育学位在线验证报告 翻译件(英文)(Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate) 卒業見込者…教育部学籍在线验证报告 翻译件(英文)(Online Verification Report of Student Record)</p> </div>
<input type="checkbox"/> 修士学位論文(コピー)	修士学位論文のコピー、又はそれに代わる学術論文のコピーをクリップ止めして提出すること。なお、その他に参考となる論文があれば添えて提出してもよい。 修士論文又はそれに代わる学術論文が日本語又は英語以外の言語で執筆されている場合、日本語又は英語で作成した要約を添付すること。分量はA4判1～2枚程度とする。
<input type="checkbox"/> 入学後の研究計画書	A4判(任意の様式)で作成のうえクリップ止めして提出すること(4,000字以内)。 ※氏名を明記すること
<input type="checkbox"/> 研究室別の提出物等	別記4に従い、研究室ごとに定める提出物の提出、必要事項の追記をすること。

外国人留学生の場合は、以下の書類を併せて提出すること。

出願書類等	備 考
<input type="checkbox"/> 推薦書	出身大学の指導教員が作成したもの(※任意提出) 本学院出身者(研究生を含む。)及び国費外国人留学生は提出不要。
<input type="checkbox"/> 外国籍であることを証明する書類	パスポート(在留資格の確認できる頁)のコピー又は在留カードのコピー等。
<input type="checkbox"/> 国費外国人留学生証明書	国費外国人留学生であることの証明(該当者のみ提出)。本学院または本学文学研究院所属の国費留学生は、提出不要。

5. 出願期間及び提出先等

本学院への出願は、(1)インターネット出願サイト(<https://e-apply.jp/e/hokudai-let/>)への登録、(2)検定料の納入、(3)出願書類の提出、これら(1)から(3)のすべてが所定の期間内に行われたことをもって完了とする。所定の期間内に全てが完了しない場合は、出願が認められないので、充分注意すること。

《インターネット出願登録及び検定料納入期間》

【前期試験】2026年7月15日(水)10時00分から7月29日(水)午後5時まで〈日本時間〉

【後期試験】2026年12月14日(月)10時00分から12月25日(金)午後5時まで〈日本時間〉

《検定料》

30,000円 ※検定料に加え決済手数料500円が必要となる。

《出願書類の提出期間》

【前期試験】2026年7月31日(金)から8月7日(金)〈日本時間〉

【後期試験】2027年1月4日(月)から1月8日(金)〈日本時間〉

持参の場合:受付時間は午前9時から午後5時まで。〈日本時間〉

郵送の場合:上記期間内に必着のこと。この期間内に必着のこと。海外在住者の場合も必着。

※電子媒体での提出は認められません。災害や交通事情等による配達の遅延リスクを考慮の上、発送すること。

《出願書類提出先》

北海道大学文学事務部 教務担当(〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目)

出願書類を郵送する場合には、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書きし、書留郵便とすること。

※提出された出願書類は返却しません。

(1) インターネット出願サイトへの登録

インターネット出願サイト(<https://e-apply.jp/e/hokudai-let/>)から、「日本語」を選択し、出願ページに進むこと(注:「英語」からは出願登録ができない)。その後、「はじめに」を確認した上で、「募集要項・出願する」から、画面の指示に従い出願登録をすること。

(2) 検定料の納入

インターネット出願サイトで必要な登録作業を行った後、同サイトにて検定料を支払うこと。支払い方法は、コンビニエンスストア、郵便局・銀行のATM、ネットバンキング、クレジットカード、中国銀聯網決済の中から選択できる(支払いに際し、決済手数料500円が必要となる)。郵便局・銀行の「窓口」での支払いはできないので注意すること。支払い方法の詳細については、インターネット出願サイトで確認すること。

なお、既納の検定料は、以下の場合を除き返還できない。

①検定料を払い込んだが北海道大学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合

②検定料を誤って二重に払い込んだ場合

(注)出願期間内に願書の提出が完了しない場合、検定料を支払っていても出願は認められないので、検定料の支払いは余裕を持って行うよう注意すること。

【重要】現在本学大学院修士課程・専門職学位課程を修了見込みの者で、間を空けずに引き続き文学院博士後期課程に進学する者及び国費外国人留学生は検定料の納付が不要となる。本学文学院修士課程に在籍している者へは、ELMSで出願に必要なパスワードを通知する。その他の該当志願者はインターネット出願サイトで出願登録を行う前に文学事務部教務担当(lkvom@let.hokudai.ac.jp)宛にEメールにて、現在の所属、学生番号、氏名を記載の上、連絡すること。Eメールの返信にて出願登録に必要なパスワードを通知する。

(3) 出願書類の提出

検定料の支払いが完了後、インターネット出願サイトから「入学願書」・「受験票」・「写真表」をダウンロード(PDF)し、それぞれを印刷(両面印刷不可)した上で、出願期間内に「3. 出願書類」記載の書類を揃えて出願書類提出先に提出すること。

※検定料の支払いが完了するまでは、入学願書等のダウンロードはできない。

Ⅱ. 入学試験

6. 入学試験期日及び場所

- (1) 試験期日 【前期試験】 2026年9月29日(火) 午前10時00分から
【後期試験】 2027年2月4日(木) 午前10時00分から

- (2) 場 所 北海道大学大学院文学院(札幌市北区北10条西7丁目)
※試験室等の詳細については受験票送付時に通知する。
※本学での受験が困難な場合は、オンラインでの受験を認める。受験方法について、願書に明示すること。
オンラインでの受験を選択した場合には、その理由を問い合わせることがある。
オンラインでの受験希望者は、別記3及び別記4を参照の上、受験に必要な環境等を整えておくこと。
なお、原則として、出願後の受験方法変更は認められない。

7. 選抜方法

研究室ごとに行う口述試験等の結果及び出願書類を総合して合格者を決定する。

口述試験等:口述試験は、提出された修士学位論文(写)・研究計画書等に基づいて専門知識・研究計画等について試問する。このほかに研究室によっては筆記による試験等を課することがある(別記8頁参照)。

8. 合格者発表

【前期試験】 2026年10月9日(金) 午後4時

【後期試験】 2027年2月18日(木) 午後4時

合格者受験番号について文学院公用掲示板への掲示及び文学院ウェブサイトへの掲載を行うとともに、受験者宛、可否を郵送(海外在住者についてはメール)により通知する。電話等による問い合わせには一切応じない。

なお、通知の到着は、5～6日後(宛先が日本国内の場合)になることがある。

別記

人文学専攻

研究室名	口述試験等
哲学倫理学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語(英語・独語・仏語・古典ギリシア語・ラテン語等のうち一つないし二つ)の文章を読み質問に答えることを求める(辞書持込み不可)。
宗教学インド哲学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
日本史学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
東洋史学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
西洋史学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
考古学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
文化人類学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
芸術学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
博物館学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
欧米文学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
日本古典文化論	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
中国文化論	・中国語文献読解。辞書持込み可。 ・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
映像・現代文化論	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
言語科学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
スラブ・ユーラシア学	・外国語文献読解:英語2題、ロシア語2題の中から任意の2題を選択し、日本語訳を行うか、英語のロシア語訳もしくはロシア語の英語訳を行う。辞書持込み可(電子辞書は不可)。 ・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
アイヌ・先住民学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。

人間科学専攻

研究室名	口述試験等
心理学	・英語文献読解及び英作文。辞書持込み不可。 ・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
行動科学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識、研究能力、英語能力、入学後の研究計画などについて試問する。
社会学	・英語文献読解。辞書持込み不可。 ・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
地域科学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。

・出願上の注意

- (1) 入学願書の履歴事項欄には、高等学校卒業以降の履歴を全て記載すること。入学後、履歴中に重大な虚偽のあることが判明した場合は、入学を取り消すことがあるので注意すること。
- (2) 病気・負傷や障害等により、受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする者は、所定の期日までに文学事務部教務担当に申し出ること。
〈所定の期日〉前期試験(9月)受験者:2026年6月12日(金)、後期試験(2月)受験者:2026年11月6日(金)

・受験票の発送

受験票は、前期試験は8月下旬、後期試験は1月下旬に発送する。

・入学手続

- (1) 入学手続期間 3月上旬(入学手続の詳細は、2月下旬に通知する。)
- (2) 入学料 282,000 円
本学大学院の修士課程(博士前期課程)を修了し、引き続き博士後期課程に進学する者からは、徴収しない。
- (3) 授業料 前期分 267,900 円(年額 535,800 円)
(注1) 上記の納付金は予定額であり、今後改定される場合がある。
(注2) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される。

・外国籍の出願者への留意事項

- (1) ビザ/在留資格について
本学で外国人留学生として在籍するには、在留資格「留学」を取得する必要がある。在留資格「留学」の申請に必要な「在留資格認定証明書」は、申請から発行までに3ヶ月以上かかる場合があるため留意すること。なお、在留資格取得にかかる手続きについては、以下の本学 web サイトを参照すること。
日本語版：<https://intl-student-handbook.oia.hokudai.ac.jp/preparation/visa>
英語版：<https://intl-student-handbook.oia.hokudai.ac.jp/en/preparation-en/visa-en>
- (2) 安全保障輸出管理について
本学では「外国為替及び外国貿易法」に基づき「北海道大学安全保障輸出管理規程」を定めて貨物の輸出、技術の提供(人の受入を含む)について厳格な審査を実施している。
規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない又は研究が実施できない等の制限がかかる場合がある。
安全保障輸出管理にかかる具体的な規制事項等の詳細については、以下の経済産業省のウェブサイト参照のこと。
《経済産業省ウェブサイト》<https://www.meti.go.jp/policy/ampo/>

・長期履修制度について

この制度は、主として時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を行うためのものである。

これに申請できるのは、官公庁・企業等に在職している者(給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。)、自ら事業を行っている者等フルタイムの有職者、育児及び親族の介護等にたずさわっている者、又はそれらに準じる仕事や負担によって修学に重大な影響がある者に限定される。

希望者は2027年1月4日(月)から2027年1月8日(金)に申請を行い、本学院における審査を経て、2月下旬に適用が決定される。入学時に長期履修が認められた者の授業料は、概ね標準修業年限に納付すべき授業料の額(年額×3年)を長期履修が認められた年数で除した額を年額として決定する。

なお、申請書類には、長期履修を希望する理由が確認できる書類等を添付する必要があるため、申請者は、以下 URL 及び QR コードより申請書類を確認の上、必要書類を申請時まで揃えておくこと。

以下 URL 及び右の QR コードから申請書類を事前に取得し準備すること。

https://drive.google.com/drive/folders/1LBHiCI-A9P6hhq47jHWFnygs_mf6hgPi?usp=sharing



・教育方法の特例(大学院設置基準第14条による特例)について

本学院では、通常、平日1講時～5講時(8:45～18:00)に授業を行うこととなっているが、有職者である学生に限り、その所属先における勤務条件、通学に要する時間等について、教員が考慮した上で、通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に授業を設けることが許されている。この特例による授業の実施を希望する者は、合格発表後、指導を希望する教員に申し出るとともに、今後の研究・学習計画等について指導をうけること。

・個人情報の取り扱いについて

- (1) 本学院が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等を遵守するとともに、「国立大学法人北海道大学個人情報管理規程」に基づき、保護に万全を期している。
- (2) 出願書類に記載されている氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜、②合格者発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、及び⑤これらに付随する業務を行うために利用する。
- (3) 各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学院から当該業務の委託を受けた業者(以下「受託業者」という。)において行うことがある。業務委託に当たり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、個人情報の全部又は一部が提供される。
- (4) 合格者のみ、(2)の個人情報を入学後の①教務関係(学籍、修学指導等)、②学生支援関係(健康管理、奨学金申請等)、③就職支援関係、④授業料等に関する業務を行うために利用する。
- (5) (4)の個人情報のうち、氏名及び住所に限って、北大フロンティア基金及び本学院関連団体である北海道大学体育会からの連絡を行うために利用する場合がある。
- (6) EU 一般データ保護規則(GDPR)に基づく個人情報の取扱いについては、対象者に別途お知らせする。当該規則の適用となる者(欧州経済領域(EEA)加盟国内から出願する者)は出願前に文学事務部教務担当に申し出ること。

・入学試験に関する問い合わせ先

北海道大学文学事務部教務担当

TEL (011) 706-3005、3004(月～金 8:30～17:00/祝日及び12/28～1/3を除く。)

Email: lkyom@let.hokudai.ac.jp

※問い合わせは、やむを得ない場合を除き志願者本人が行うこと。

※上述の期間以外でも臨時に閉室することがあるため、早めに問い合わせをすること。

・各種情報開示について

翌年度5月に志願者数、合格者数、入学者数の情報をウェブサイト上で公開する。

・その他

試験実施に関する変更や追加の連絡事項等がある場合はウェブサイトに掲載するため、出願前に確認すること。

海外在住の外国籍の方で、日本に入国して試験を受ける方は、必要に応じて各自ビザの取得手続きをすること。本学院では、受験のためのビザ申請手続きはしていない。

遠方からの受験者は、風雪害や台風等による交通機関の遅れ等を考慮し、日程に十分ゆとりをもたせるほか、衣服(室内外での温度差等)・履物(降雪・路面凍結等への対応)に注意すること。風雪害、交通障害等を考慮して、余裕をもって到着できるよう準備することが望ましい。

別記1 (志望専攻、研究室決定の参考)

・修士課程授業科目表

人文学専攻	人文学専攻	人間科学専攻
<p>(哲学倫理学研究室提供科目) 哲学 特殊 講義 倫理学 特殊 講義 論理学 特別 演習 古代中世哲学 特別 演習 近現代哲学 特別 演習 倫理学 特別 演習</p> <p>(宗教学インド哲学研究室提供科目) インド哲学仏教学 特殊 講義 宗教学 特殊 講義 インド哲学仏教学 特別 演習 宗教学 特別 演習</p> <p>(日本史学研究室提供科目) 日本史学 特殊 講義 日本古代史 特別 演習 日本中世近世史 特別 演習 日本近現代史 特別 演習</p> <p>(東洋史学研究室提供科目) 東洋史学 特殊 講義 東洋史学 特別 演習</p> <p>(西洋史学研究室提供科目) 西洋史学 特殊 講義 西洋史学 特別 演習</p> <p>(考古学研究室提供科目) 考古学 特殊 講義 考古学 特別 演習 北方考古学 特別 演習 考古科学 特別 演習 環境考古学 特別 演習 考古学 特別 実習</p> <p>(文化人類学研究室提供科目) 文化人類学 特殊 講義 文化人類学 特別 演習</p> <p>(芸術学研究室提供科目) 芸術学 特殊 講義 芸術学 特別 演習</p> <p>(博物館学研究室提供科目) 博物館・文化財研究 特殊 講義 博物館・文化財研究 特別 演習</p>	<p>(欧米文学研究室提供科目) 英米文学 特殊 講義 西洋文学 特殊 講義 英米文学 特別 演習 I 英米文学 特別 演習 II 英米文学 特別 演習 III 西洋文学 特別 演習 言語文化論 特別 演習</p> <p>(日本古典文化論研究室提供科目) 日本古典文化論 特殊 講義 日本古典文化論 特別 演習 文献学(国語・国文) 特別 演習</p> <p>(中国文化論研究室提供科目) 中国文化論 特殊 講義 中国思想 特殊 講義 中国語学 特殊 講義 中国文学 特殊 講義 中国思想 特別 演習 中国語学 特別 演習 中国文学 特別 演習</p> <p>(映像・現代文化論研究室提供科目) 映像表象文化論 特殊 講義 現代表象文化論 特殊 講義 日本現代文化論 特殊 講義 映像表象文化論 特別 演習 現代表象文化論 特別 演習 日本現代文化論 特別 演習</p> <p>(言語科学研究室提供科目) 言語学 特殊 講義 英語学 特殊 講義 西洋言語学 特殊 講義 日本語学 特殊 講義 言語学 特別 演習 英語学 特別 演習 西洋言語学 特別 演習 日本語学 特別 演習 言語分析論 特別 演習</p> <p>(スラブ・ユーラシア学研究室提供科目) スラブ・ユーラシア研究 特殊 講義 スラブ・ユーラシア総合研究 特殊 講義 スラブ・ユーラシア総合研究 特別 演習 スラブ・ユーラシア文化研究 特別 演習 スラブ・ユーラシア社会研究 特別 演習 スラブ・ユーラシア相関研究 特別 演習</p> <p>(アイヌ・先住民学研究室提供科目) アイヌ・先住民学 特殊 講義 アイヌ・先住民学総合 特殊 講義 アイヌ・先住民学 特別 演習 アイヌ・先住民学海外 特別 演習</p>	<p>(心理学研究室提供科目) 心理学 特殊 講義 認知理論 特別 演習 行動理論 特別 演習 知覚情報論 特別 演習 表象構造論 特別 演習 知識構造論 特別 演習 思考過程論 特別 演習 学習過程論 特別 演習</p> <p>(行動科学研究室提供科目) 行動科学 特殊 講義 行動科学 特別 演習 行動実験調査法 特別 演習 計量行動学 特別 演習 数理行動学 特別 演習 社会心理学 特別 演習 集団力学 特別 演習</p> <p>(社会学研究室提供科目) 社会学 特殊 講義 社会調査法 特別 演習 社会学理論 特別 演習 社会集団論 特別 演習 社会構造論 特別 演習 社会変動論 特別 演習</p> <p>(地域科学研究室提供科目) 地域科学 特殊 講義 地域分析法 特別 演習 地域社会学 特別 演習 開発社会学 特別 演習 地域環境学 特別 演習 社会生態学 特別 演習 人文地理学 特別 演習 人経地理学 特別 演習 地誌学 特別 演習 地理学 特別 演習 地域調査 特別 演習 地域科学 特別 演習</p>

・各研究室における専門分野

人文学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専 門 分 野
哲学宗教学	哲学倫理学	教授 奥野 満里子 教授 佐野 勝彦 教授 田口 茂 教授 村松 正隆 准教授 宮園 健吾 助教 野村 恭史	哲学・哲学史、倫理学・応用倫理学、応用哲学、論理学、社会思想史
	宗教学インド哲学	教授 林寺 正俊 教授 宮嶋 俊一 准教授 眞鍋 智裕 講師 佐崎 愛	宗教学、インド哲学、仏教学
歴史学	日本史学	教授 川口 暁弘 教授 権 錫永 教授 谷本 晃久 教授 橋本 雄 准教授 吉田 拓矢	日本史学
	東洋史学	教授 佐藤 健太郎 教授 吉開 将人 准教授 小林 晃 講師 末森 晴賀	東洋史学
	西洋史学	教授 長谷川 貴彦 教授 松脇 明男 教授 村田 勝幸 准教授 飯坂 晃治 准教授 安酸 香織	西洋史学
	考古学	教授 江田 真毅 教授 高瀬 克範 准教授 國木田 大 准教授 中澤 祐一 准教授 夏木 大吾	考古学、物質文化論、植物考古学、動物考古学、実験考古学、文化財科学
文化多様性論	文化人類学	教授 小田 博志 教授 山口 未花子 准教授 コーカー・ケイトリン・クリスティーン 助教 田中 佑実	文化人類学
	芸術学	教授 浅沼 敬子 教授 今村 信隆 教授 谷古宇 尚	美学・芸術学、西洋美術史、現代美術史
	博物館学	准教授 小山 亮 准教授 久井 貴世 講師 卓 彦伶	博物館学、動物に関する歴史・文化

人文学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専 門 分 野
表現文化論	欧米文学	教授 小椋 彩 教授 竹内 修一 教授 竹内 康浩 教授 戸田 聡 特任助教 宮下 弥生	英米・英語圏文学、フランス文学、ロシア・スラブ文学、西洋古典文学
	日本古典文化論	准教授 小林 理正 准教授 関谷 由一 准教授 野本 東生 准教授 南 陽子	日本古典文学、日本古典文化
	中国文化論	教授 近藤 浩之 教授 田村 容子 准教授 熊 征 准教授 吉田 勉	中国思想、中国語学、中国文学
	映像・現代文化論	教授 応 雄 教授 押野 武志 教授 水溜 真由美 准教授 川崎 公平	映像論、表象文化論、日本文学(近代・現代)、日本文化(近代・現代)、日本思想(近代・現代)
言語科学	言語科学	教授 李 連珠 教授 伊藤 孝行 教授 加藤 重広 教授 蔦 清行 教授 野村 益寛 教授 藤田 健 准教授 加藤 祥 准教授 菅井 健太	言語学、国語学、日本語学、英語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学・スラブ語学
スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学	教授 青島 陽子 特任教授 岩下 明裕 教授 宇山 智彦 教授 仙石 学 教授 長縄 宣博 教授 野町 素己 教授 服部 倫卓 准教授 安達 大輔 講師 李 優大	ロシアの社会と文化、中央ユーラシアの社会と文化、東欧の社会と文化
アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学	教授 加藤 博文 教授 北原 モコットウナシ 教授 山崎 幸治 准教授 落合 研一 准教授 丹菊 逸治 准教授 平澤 悠 准教授 蓑島 栄紀	アイヌ・先住民に関する文化人類学、言語学、考古学、歴史学、博物館学、文化遺産学

人間科学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専 門 分 野
心理学	心理学	教授 小川 健二 教授 河原 純一郎 准教授 金子 沙永 准教授 田辺 弘子 助教 森本 琢	認知心理学、認知科学、実験心理学、音楽心理学、視覚科学、認知神経科学、応用心理学、運動心理学
行動科学	行動科学	教授 大沼 進 教授 高橋 泰城 教授 高橋 伸幸 教授 竹澤 正哲 教授 結城 雅樹 准教授 瀧本 彩加 助教 中島 晃	行動科学(社会心理学、文化心理学、環境心理学、進化心理学、行動経済学、比較認知科学など)
社会学	社会学	特任教授 平澤 和司 准教授 伍 嘉誠 助教 中村 聖 教授 樋口 麻里 講師 平松 誠	社会学 共生社会論(都市・地域社会学、医療福祉社会学・DEI研究、ジェンダー・セクシュアリティ論)
地域科学	地域科学	教授 橋本 雄一 准教授 上野 真由美 准教授 高橋 昂輝 准教授 寺林 暁良 助教 寺田 千里	人文地理学、地域社会学、社会生態学

(順不同)

※本表は、2027年4月1日に文学院に在籍する予定の教員の一覧であり、記載内容は変更となる場合があります。

別記2 出願資格審査

「2. 出願資格」の(7)(8)…修士の学位を有していない者に対する個別の資格審査…により出願しようとする場合

(1) 提出書類

- ①受験資格審査願(本学院所定の用紙、申し出により交付する。)
- ②入学願書(外国人留学生は初等教育から最終学歴まで全ての入学、卒業に関する情報を記入すること。)
- ③最終学校の卒業証明書、成績証明書
- ④最終学校卒業後の学習歴、実務経験等を2,000字以内で述べたもの。
- ⑤最終学校卒業後の学習歴、実務経験等を証明できるもの。

例:教育機関の在学証明書、成績証明書
研究機関の在職証明書又はこれに代わるもの。

出版物、講演会発表要旨

⑥返信用封筒(出願資格通知用)

封筒(長形3号)に申請者の郵便番号・住所・氏名を明記し、410円分の切手を貼付したもの。

(2) 提出期限

【前期試験】「2. 出願資格」の(7)(8)に対する個別の資格審査は行わない。

【後期試験】2026年11月6日(金)

(3) 審査基準

次のア、イの両方の条件を満たす者に、出願資格を与える。

ア 客観的に証明できる学習歴、実務経験等を有し、それらの年数と本人の受けた学校教育の年数を合算し、18年以上となること。

イ 修士学位論文に相当する学習・研究成果をあげていること。

別記3 オンラインで受験する方へ

オンラインで受験するためには、指定された受験環境を、受験者自ら揃える必要があります。

以下を熟読し、試験に備えてください。

なお、口述試験等の中で、筆記による試験を実施する研究室の受験者は、別記4に記載のとおり、事前にオンライン試験受験のための環境確認が行われることにもご留意ください。

〈注意事項〉

対面方式／オンライン方式の選択は、出願時のみ選択可能です。届け出後の変更は原則として認めません。

受験者の責任による機器不調で試験が継続できない場合、欠席として扱われます。

自室などの静謐な環境で受験してください。試験時間中に受験者以外の第三者が受験場所にいたり、入室したりした場合は、試験を中止します。不正行為が疑われる場合は、試験の続行を認めず失格とし、不合格となります。

トイレ等の理由を問わず、試験時間中に席を離れた場合には、その時点で試験を終了します。

試験時間内に参照や使用を許可されていない資料やデバイスを使用した場合は、失格とし、不合格となります。

試験問題は試験時間内の閲覧のみ許可します。試験終了後も保持すること及び他者への公開は固く禁じます。指示違反が確認された場合は、事後でも合格を取り消すことがあります。(試験問題の提示がある場合)

筆記による試験中に、他の受験者からの質問や監督教員からの指示などがあった場合や、日常生活騒音等(他の受験者や監督教員の動作音、周囲の物音など)が発生した場合も、特段の配慮は行いません。

〈オンライン受験に必要な環境〉

下記の物を試験当日まで(受験のための環境確認を行う研究室は確認時まで)にすべて用意すること。用意できない場合は受験することができません。

なお、別記4「研究室別試験案内」で別途指示がある場合は、それに従ってください。特段指示が無い場合は、下記受験環境を用意してください。

※試験当日に不備があった場合、不合格となります。

- ①個室(試験時間中に第三者が入ってこない静謐な環境)
- ②カメラ付きデバイス1台(パソコン推奨)
- ③マイク、スピーカー(ヘッドフォン可)

〈実施方法〉

試験はインターネットを介した Web ミーティングで実施します。

安定したインターネット接続環境が必要となります。インターネット接続は、無線(Wi-Fi)よりも有線の方が安定し、スマホでは電話回線(SIM 接続)より無線(Wi-Fi)のほうが安定しているとされますが、事前に、個々人の環境で確認しておいてください。

「口述試験等」のなかで、専門知識を問う問題・外国語能力を問う問題・資料や文献の読解力を測る課題などを出題する研究室があります。問われる内容や出題方法は研究室によって異なります。

接続の不具合があった際など、緊急時に願書及び申し込みフォームに記入した電話番号及びメールアドレスに連絡することがあります。

その他試験実施に関するお知らせは受験票送付時に送ります。

別記4 研究室別試験案内

人文学専攻

研究室	受験者が受験時に用意するもの	その他受験者への連絡事項 ※提出書類は、出願書類と併せて出願期間に提出すること。
哲学倫理学	なし	なし
宗教学インド哲学	なし	なし
日本史学	なし	なし
東洋史学	なし	なし
西洋史学	なし	なし
考古学	なし	なし
文化人類学	なし	なし
芸術学	なし	なし
博物館学	なし	なし
欧米文学	なし	検定試験などによる外国語(志願者の母語でない言語)の能力を証明するもの(日本語検定、英検、TOEIC や TOEFL、仏検、ロシア語検定など)があれば提出してもよい。
日本古典文化論	なし	なし
中国文化論	オンライン受験者は、パソコン及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)を用意すること。	オンライン受験者には、機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。
映像・現代文化論	なし	なし
言語科学	なし	(1)口述試験において、言語学、国語学、日本語学、英語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学・スラブ語学の中でどの分野を選択するか、 (2)入学後、どの教員を指導教員として希望するか、 の2点を研究計画書の末尾に明記すること。
スラブ・ユーラシア学	オンライン受験者は、パソコン及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)を用意すること。	オンライン受験者には、機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。
アイヌ・先住民学	なし	研究計画書の末尾に「参考文献リスト」(研究計画書の字数に含めない)を付すこと。

人間科学専攻

研究室	受験者が受験時に用意するもの	その他受験者への連絡事項 ※提出書類は、出願書類と併せて出願期間に提出すること。
心理学	オンライン受験者は、パソコン及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)を用意すること。	オンライン受験者には、機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。
行動科学	なし	なし
社会学	オンライン受験者は、パソコン及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)を用意すること。	オンライン受験者には、機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。
地域科学	提出した研究計画書の説明に必要な資料	なし

北海道大学大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目
011-706-3005、3004(教務担当)

<https://www.let.hokudai.ac.jp/>